

資料館だより

第 48 号

平成20年（2008）

3月31日発行

編集・発行 市立歴史民俗資料館 〒208-0004 東京都武蔵村山市本町5-21-1 TEL 042(560)6620
ホームページアドレス <http://www.city.musashimurayama.tokyo.jp/shiryoukan.html>



加藤榎（中央）と乙幡榎（左後方）〈撮影時期：昭和43年（1968）初冬〉星野晴一氏提供

市指定史跡“三本榎”のうち加藤榎の伐採について

乙幡榎（榎3-5-1）加藤榎（学園1-2-3）奥住榎（学園1-5-7。東京都水道局用地内）をまとめて、三本榎と呼んでいます。これは市を代表する巨樹として親しまれ、またその地は昭和51年（1976）に武蔵村山市の史跡指定を受けました。

しかし乙幡榎と加藤榎は、昭和60年代より病虫害によると思われる症状が表れた他、雪害のため太枝を損傷するといった被害が生じ、その都度活性剤の注入や腐朽部分の切除といった樹勢回復手術を施し、文化財保護へ取り組んできました。そ

の結果、乙幡榎は回復を見せましたが、加藤榎の衰えは著しくなっていました。

そこに今回、都道（立川所沢線）交差点拡幅工事が計画され、市教育委員会は加藤榎の移植を検討していましたが、移植作業に耐えることは難しいと判断されたことなどから、伐採もやむを得ないとし、加藤榎の実より育った樹を移植して、二代目加藤榎とすることになりました。

また、これに伴う文化財調査の結果をもとに、史跡三本榎の指定を一部解除することも決定しました。

三本榎の史跡指定一部解除に伴って

・三本榎とその伝承

武蔵村山市は、市の木に「榎」を制定しています。これは昭和50年（1975）に市制5周年を記念して市の木、市の花を選定するにあたり、榎、榲、木犀、檜、榿の候補より市民5千人を対象にしたアンケートを実施し、最も支持を集めた榎が、市の木に決定されたという経緯によるものです。

武蔵村山市の榎というと乙幡榎、加藤榎、奥住榎から成る三本榎が挙げられるのではないのでしょうか。三本榎の伝説を『武蔵村山の昔がたり－村山ことばによる口頭伝承－』から紹介してみましょう。

昔、乙幡、加藤、奥住ツちゅう三人の若衆がいてよう。遠矢の競争をしたアだアと。ソン時、弓をウツタアとこが、赤堀の山王様だつてゆうだアケンドよう。アスクツからじゃあ、三本榎まで矢が届かぬえやなあ。行人塚から弓をウツタツちゅう話もアンケンドよう。アスクツからなら届くだんべえ。まあ、どっちからウツタカシンネエケンド、とにかく、遠矢の競争をして、自分のウツタ矢がおこつたアとこに、テンデンコに榎を植えてツたアだアと。上の榎が乙幡榎、中の榎が加藤榎、下の榎が奥住榎ツツて、三本まとめ

て三本榎ツちゅうだアよ。

ソンでよう。昔ツから、榎の葉の出具合で、ソン年の桑ツ葉の出来を占ったツちゅうなあ。

ここに見られる桑の葉との関係については杉本林志氏の『狭山之葉』（明治時代初期に著述。1939年刊行）に「村内に三本の榎あり。上なるを乙幡榎、中なるを加藤榎、下なるを奥住榎と呼び、上なる榎に早く葉生ずる時桑の値段初め安く、中の榎早く葉を生ずる時は中頃安く、下なる榎早く葉を生ずる時は終り頃に至つて桑の値安しと云ふ」と詳しく書かれています。

このような榎の葉を材料とした卜占は、他地域でも見られ、柳田國男氏の「神樹篇」（『柳田國男全集14』1990筑摩書房）には安芸豊田郡末光村（現・広島県三島市）の「世はかりの榎と称して高さ三間、枝の蔭二十間四方を蔽うほどの大木があった。土地ではこの木の葉を出す遅速多少を見て、世はかりすなわち年の豊凶を卜する風習があった」という事例が報告されています。

この論にも書かれていますが、エノキは別名ヨノキともいいます。ヨノキという名を「世の木」と捉え、自分たちを取り巻く社会の安定に密接に関わる、作柄を占うに相応しい樹木と見



加藤榎（左）と乙幡榎（右）〈撮影時期：昭和46年（1971）〉潮照文氏提供

たのでしょう。当市の三本榎にまつわる伝承はこれと同系統のものですが、桑の出来（値段の高低）を予見すると特定した説明がされており、養蚕の盛んな地域ならではの特色が現れた俗信といえます。

・三本榎の塚について

三本榎の南には市域を東西に走り、青梅と新河岸川の引又河岸（埼玉県志木市）とを結ぶ引又街道の名残が見られます。江戸時代の新河岸川は川越と江戸をつなぐ輸送路であり、ここに通じる引又街道もまた重要な街道でした。三本榎の所在地はこの道脇にあたり、榎の根元が塚状の盛り上がりをして成していることから、近世以降に主要街道に設けられていた一里塚の役割を持っていたと想像されてきました。

明治9年（1876）の一里塚廃毀令以降、道路拡張などの理由から、一里塚及びそこに植えられていた樹木は次々と失われていくこととなり、現在東京都内に残る一里塚は志村一里塚（板橋区）など僅かであり、その存在は大変稀少となっています。そもそも昭和51年（1976）に三本榎を史跡として指定した理由には、その塚に一里塚の形態が残存しているという点が重要でした。

そして今回の都道拡張工事に伴い、移植が困難であり、かつ倒壊の危険性がある加藤榎を伐採することになり、同時にその塚部分も消滅す

ることから、歴史民俗資料館では加藤榎の塚の埋蔵文化財調査を実施しました。加藤榎の塚は、径9m、高さ0.9mほどで楕円状の形状をしており、かつては天保4年（1840）銘の馬頭観音が立っていました。

調査の結果、加藤榎の塚状の地形は、榎の根がその成長に伴って、附近の土を盛り上げて生成したものと確認され、榎と塚の一体的な成り立ちの可能性は低くなりました。そして武蔵村山市文化財保護審議会では、加藤榎に関しては市史跡とした際の理由に当たらないため、史跡指定解除の答申をまとめ、これを受けて武蔵村山市教育委員会は解除を決定しました。

・むすびにかえて

しかし乙幡榎及び奥住榎については史跡指定を継続し、文化財名称もその総称として「三本榎」の名を残していきます。史跡指定の一部解除とはなりませんが、100年以上の長き年月にわたって往還に行く人々と地域の歴史を見守り続けてきた貴重な存在であり、その伝承を地域に根づかせてきた事に変わりはありません。

これから先も二代目の加藤榎を含めた新しい三本榎を、今までどおりに市のシンボルと捉えて、大事にしてもらえればと思います。

（歴史民俗資料館学芸員 青木哲）



三本榎地図

（「武蔵村山市白図〈平成16年調製〉」を使用）

※ 今回の資料館だよりで紹介した昭和時代の三本榎の写真は『写真展解説書 ちっとんべえ昔の武蔵村山』に収録されています。本書は1部300円で歴史民俗資料館、市政情報コーナー、情報館えのきで販売しています。



二代目加藤榎

寄贈資料（平成19年度）

| | 寄 贈 者 (敬称略、五十音順) | 寄 贈 資 料 名 | 数 量 |
|---|---------------------|-------------|--------|
| 1 | 荒 畑 勝 實 | 牛乳缶 | 全 1 点 |
| 2 | 荒 畑 芳 旦 | オサトオシほか | 全 6 点 |
| 3 | 石 川 伊 三 郎 | 秉燭（ヒョウソク）ほか | 全 2 点 |
| 4 | 高 橋 健 樹 | 下駄 | 全 2 点 |
| 5 | 野 崎 富 生 | 村山音頭レコードほか | 全 14 点 |
| 6 | 波 多 野 晃 夫 | 台つきの石臼 | 全 1 点 |
| 7 | 渡辺酒造合名会社 | 渡辺酒造歴史資料 | 調 査 中 |

平成20年度の主な事業（予定）

※ 実施時期、詳細等は資料館HP、市報等でお知らせいたします

| | 事 業 内 容 | 期 間 | 場 所 |
|----|-------------------------|--------|-----------|
| 1 | 季節展 「端午の節供」 | 4～5月 | 歴史民俗資料館 |
| 2 | 収藏品展 「渡辺酒造」 | 5～6月 | 歴史民俗資料館 |
| 3 | 季節展 「七夕飾り」 | 7月 | 歴史民俗資料館 |
| 4 | 夏休み子ども展示 | 7～8月 | 歴史民俗資料館 |
| 5 | 収藏品展 「確認調査の成果」 | 9～10月 | 歴史民俗資料館 |
| 6 | 特別展 「武蔵村山の戦争遺跡」 | 10～12月 | 歴史民俗資料館 |
| 7 | 季節展 「お正月飾り」 | 12～1月 | 歴史民俗資料館 |
| 8 | 季節展 「桃の節供」 | 2～3月 | 歴史民俗資料館 |
| 9 | 資料館講座（歴史講座、体験教室、自然観察会） | 随 時 | 歴史民俗資料館ほか |
| 10 | 文化財見学会（「東京文化財ウィーク」関連事業） | 11月頃 | 未 定 |

<歴史民俗資料館からのお知らせ>

- ◆ 平成19年度特別展解説書『村山大島紬－都無形文化財指定40周年記念－』を刊行しました。1部250円で、歴史民俗資料館、市政情報コーナー、情報館えのきで販売しています。
- ◆ 昨年、渡辺酒造合名会社より民具類や文書類など多数の資料をご寄贈いただきました。目下、整理調査をおこなっていますが、その中の一つである信楽焼きのタヌキを、資料館入口に展示しています。
- ◆ 『武蔵村山市史調査報告書第11集 武蔵村山の民俗その五』（平成13年発行）と『武蔵村山市の指定文化財』（平成14年発行）は完売しました。
- ◆ 『武蔵村山市文化財資料集21 東京都武蔵村山市谷津富士講調査報告書（本編）』（平成13年発行）は長らく完売していましたが、このたび再刊いたしました。1部300円で歴史民俗資料館、市政情報コーナー、情報館えのきで販売しています。